

パンタナル通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報

2015年1月1日 136号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護



レダ基地航空写真。左がパラグアイ川本流。中央に滑走路。手前と遠方にパクーの養殖池を望む。（2014年4月撮影）

謹賀新年

2015

平成二十七年

二〇一五年の希望と喜びの朝を迎え、一言ご挨拶を申し上げます。

昨年は重要なゲストが次々とレダ基地を訪問しました。特に四月のパクー稚魚放流式典では、フランコ前大統領ご夫妻（夫人は現職上院議員）、下院議員、各市長をはじめ多数のVIPを迎え、皆様と多くの感動と喜びを共有できました。州都オリンポ市には今回もパクー稚魚を贈呈し、感謝されました。私たちのモットー、「自然環境の保護と、発展途上国への地域支援活動」を前年同様、実際に示すことができました。

十月には現職のフアン副大統領、田岡大統領顧問が来園され、「電気も水道も無かった辺境の地をよくここまで発展させ、地域に貢献して下さり、国の為に希望を与えてくれている。」と感銘され、今後の協力を約束して行かれました。また、パラグアイのマスメディアはもとより、韓国TV局MBC社、ピースTV社やベルギー国営TV局、日本の新聞社（世界日報）等も取材に来て、同様に感動して行かれ、報道しています。（ベルギーは二月放映予定）辺境の地における私たちの活動が一気に世界に報道され始めたのです。また、昨年は異常気象もあり、レダ基地は洪水の危機にみまわれましたが、かろうじて乗り越えました。

魚の養殖池は十五箇所から更に増設し、十万匹の養殖に向けて前進中です。飼料もタロイモ栽培を本格化して行きます。販路も確実に首都アスンシオン市を目指します。牧畜では洪水対策をしつつ、堅実に自立の道を作るよう再検討をしています。青年奉仕隊は国際的チーム編成を進め、今年も地域貢献をして行きます。

日本国内では「環境セミナー」や研修会を基盤に、東北被災地の植林活動等も継続して実践する予定です。

本年もまた皆様にとりまして、よき飛躍の年となりますよう、ご健勝をお祈り致します。



一般社団法人 南北米福地開発協会

理事長 飯野貞夫



2014年レダ基地では



パクーの大量人工孵化に再び成功！ マグノ教授の指導のもと、今シーズンもパクーの人工孵化に成功し、推定約12万匹の稚魚を育てることができました。



第2回パクー稚魚放流式典挙行！ 4月25日、パクー稚魚2万匹を放流しました。フランコ前大統領夫妻、下院議員2名、近隣の首長、メディア各社など多彩なVIPと現地先住民70名のゲストも参加しました。



第14回国際協力青年奉仕隊 8月25日から9月10日まで、アルト・パラグアイ州の先住民コミュニティ、ディアナ村、とアルト・パラナ州エルナンダリアスにおいて、植樹と勤労奉仕を中心に、文化・スポーツ交流などを活発に実行し、国境や文化を越えて相互理解と信頼関係をいっそうを深めました。



フアン副大統領が来園 10月27日、田岡顧問共に来園され、養殖・農業など諸活動を熱心に視察されました。このニームとともにパラグアイも発展し世界に平和が訪れますように祈りつつ。



タロイモ栽培が本格化

パクー養殖と養豚の展開にともない本格的なタロイモの大規模水耕栽培に着手しました。



パラグアイ川水位大上昇

地球規模の異常気象の年、パラグアイ川が長期間にわたって氾濫し、各地に被害をもたらしました。レダ基地においては恒久対策として、基地を囲む堤防の建設を計画しています。皆様の温かいご支援をお願いいたします。



ベルギー国営放送局取材班来園

10月7日、ベルギーの国営放送局TV取材班一行5名が来園しました。一行は、早朝4時からの学習会にも参加するほどで、各プロジェクトを熱心に取材し、感銘を受けて行きました。



小橋氏の作るソーセー
ジの味は折り紙つき

連載インタビュー (第3回)

Amo Leda!



フランシスコ・ビジャルバ
Francisco Villarba (52)
6人の子供 (29歳娘既婚, 27
歳息子既婚, 25歳息子, 23歳
娘, 21歳息子, 19歳息子)

Q. 来年、警察官を退官すると聞いていますが・・・?

A. その通りです。来年12月で警察官になって30年となり、退官します。

Q. その間、色々な体験をお持ちでしょうね!

A. アルトパラグアイ州の中の色々な町に赴任しました。以前は車も無く、道も整備されていなかったもので、馬で何十キロも行かねばなりませんでした。事件があれば何日もかけてその場所に行くのが常でした。

Q. レダにはいつ頃来られたのでしょうか?

A. 2004年の7月にここに赴任し、今年で10年になります。

Q. レダでの生活は?

A. ほとんど事件らしい事件も無く、本当に静かな生活です。ラジオでニュースは欠かさずに聞くようにしています。また時間があるので、警察所の裏に菜園を造って野菜を育てたり、健康のためにウォーキングを毎日しています。

Q. 世界中の警察が皆そのようになればいいですね?

A. その通りです。でも警察官が失業しそうです。

Q. レダにこられての印象は?

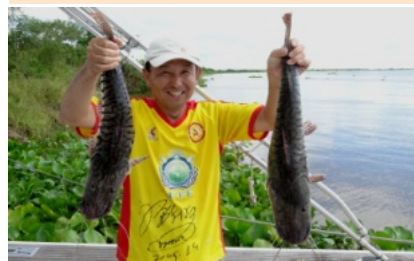
A. ここの日本の人はとても勤勉で正直な人達なので、本当に信頼ができ、また何かを依頼してもすぐ応えてくれるので、とても気持ち良く生活出来る場所、というのが自分の素直な感想です。またレダの特徴はインディオの人たちと仕事をしていることです。アルトパラグアイ州のどこの牧場に行ってもインディオの人たちをこれほど使っているところはありません。そういう意味では本当に皆さん方はインディオの人たちを助けておられ、その事自体とても素晴らしいことだと思います。

2014年レダ基地では

二〇一四年は、日本で高度の技能や技術を見につけた経験豊かなシニア・ボランティアたちが、初めて中・長期でレダ基地に赴任しました。水落氏は木工と建築、堀本氏は養豚と食肉加工、小橋氏はソーセージ製造、それぞれのプロフェッショナルが持ち前の卓越した技能を存分に発揮しています。



どんな難しいものも作る水落氏



スルビを釣り上げた堀本氏

日本国内では

創造力に富んだ青年たちの勢いも負けていません。坂井君は養豚で、上山君は養殖池における給餌、中田君は木工と養豚と武道助手、亀岡さんと武道助手、谷本さんは農業と園芸、谷本さんは調理と小橋氏の助手、それぞれの分野でレダ基地に新風を巻き起こしています。



亀岡、谷本、上山、坂井、中田各氏



パンタナール特別研修会



新日鐵住金工場見学会 (9月)

また、東北の被災地、大槌町をはじめとする各地での植樹活動、新日鐵住金工場見学会、レダ基地の活動報告会、国内日帰りエコツアーなどに多くの方々が参加されました。こうして講師、参加者、スタッフ、会員たちが経験と知識を共有し、地球環境問題に取り組んでいます。

諏訪湖環境保全活動を实地見学

十二月十一・十二日の二日間にわたり、長野県諏訪湖畔の下諏訪にて現地視察訪問を行いました。これは十一月一日の第八回環境問題セミナーに吉澤忍さんを招き「自然破壊から見た諏訪湖の現状と再生」についての講演を聴いての現地視察訪問でした。

【諏訪湖漁協を訪問】十一日は、吉澤さん宅で、諏訪湖の現状について詳しい説明を受けました。その後、午後三時半に諏訪湖漁業協同組合を訪れ、藤森貫治組合長にお会いし、諏訪湖の問題について詳しい説明と質疑応答の時間を持つことができました。組合長は最初に、壁に貼ってある新聞記事を示しながら、どのようにして県知事、水産庁、国交省、環境省との交渉を進めてきたか、その結果、国から予算を出してもらうことができるようになり、諏訪湖の再生と発展に希望の光が見えるようになったかを語られました。

【KKDで赤字解消】六年前に漁協の組合長を引き受けた時にあった累積赤字一億円を、いかにして解消し、さらに漁獲量までも上げることができるようになったのかです。そこでまず取り組んだのが赤字解消策でした。まず、組合役員の方々が率先し、赤字解消のため、無給で奉仕することにし、漁獲量が減った原因を追究し、対策を考え実行しました。役員



の中に藤森組合長や吉澤さんのような各種の専門家が揃い、有効で機能的な取り組みができるようになったとのことでした。諏訪湖には四害（悪）がありました。①湖底の貧酸素による害、②水上植物であるヒシの害、③水鳥のカワウ、カワアイサによる害、④外来魚のブラックバス、ブルーギルによる害です。ワカサギ、フナ、エビ、シジミ等を激減

させたこれら四害に対して、吉澤さんたちは、経験（K）と勘（K）とデータ（D）による科学的分析に基づいた取り組みを行い、ワカサギの漁獲高を六年間で十倍にまで増加させ、また収支面では、一億円の赤字が六年後に一〇〇〇万円の黒字を生み出すまでになっていたとのことでした。一度、環境破壊され、漁獲高も激減した諏訪湖を見事に再生させたのです。また藤森組合長は、「今後の六年間で、ワカサギの漁獲高を現在の二〇〇二五トンから、最盛時の漁獲高である五〇〇トン、現在の二〇倍まで増やしたい。そうすれば、関連するビジネスや観光産業も盛んになるだろう」と将来の計画（ドリームマップ）の一部についても語ってくれました。「諏訪湖はまだ再生の緒に就いたばかりでありプロジェクトはこれからです。」

【地域活性化のモデルに】かつて四害のために深刻な状態に陥った諏訪湖を、組合長、役員、漁協関係者、町民が一丸となって取り組んだ結果、見事に諏訪湖を再生させたことは、地元の特性を活かしており、地域活性化の希望あるモデルになると思われれます。諏訪湖のなご一層の発展を期待し、今後も関心を持ち続けたいと思いました。

【年間五〇〇トンを目指して】翌十二日は、前日の雨が上がり、晴れ間が出てきました。まず諏訪湖名物のワカサギ釣りをを行い、次に孵化場を見学しました。ガスボンベのような孵化器が十二基あり、一基につき六千万個が十二日間で孵化し、孵化率は九八%という驚異的な数字とのこと、八億匹のワカサギを諏訪湖に放流しているとのことでした。このペースでいけば、年間五〇〇トンの目標も夢ではないと思われました。これらの孵化装置も自分たちで開発したとのこと、諏訪湖の再生にかける熱い思いが伝わってきました。十一月の吉澤さんの講演を聞いて早速、諏訪湖の実態を視察することとなりましたが、吉澤さんが地元諏訪湖の再生を成し、周囲の信頼を得ている様子を目の当たりにすることができました。

環境問題研究会 赤城 勲

一般社団法人 南北米福地開発協会事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口3-11-15
岩崎ビル4F

電話: 044-829-2821

FAX: 044-829-2820

一般会員会費納入 ゆうちよ銀行

記号10280 番号61349751

一般社団法人 南北米福地開発協会

E-メール: office@asd-nsa.jp

ホームページ: http://www.asd-nsa.jp

会員種別

◆ 一般会員500円/月
(半年分3000円または一年分6000円
で左記の口座宛てご入金ください。)

◆ 正会員一口1000円/月

◆ 法人会員一口1万円/月

正会員、法人会員の会費は、毎月の引き落とし方式です。

会費振替用口座: ゆうちよ銀行

00290-5-113072

シャ) 南北米福地開発協会

入会申し込みと同時に手続きをお願い申し上げます。それが確認でき次第、会員番号を確定し、ご案内いたします。

2015年カレンダー



2015年も、あなたのお部屋に生命力あふれるパンタナールの生きものたちと、新たな生命を育むレダ基地の航空写真はいかがでしょうか。

贈り物としても喜ばれています。

お申し込みは、左記の事務局へ。